

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会



2011
3
No.508

本紙は、共同募金の
配分金によってつくられています。

主な記事

- 1面…もえくさ
- 2・3面…生き生きと働ける場づくりを目指して
- 4・5面…地域生活支援サポーター養成講座
- 6面…【新企画】うちのこれがイチオシ
- 7面…ご寄付ありがとうございました
- 8面…夢中!・熱中!ふくしびと



もえくさ

「東北地方太平洋沖地震 宮城県社協へ
先遣隊職員を派遣、今後組織的な展開へ」

▼「生きていてほしい」家族の悲痛な叫びと祈り。次々と映し出される悲惨な状況は、まさに地獄絵そのもの。▼3月11日午後2時46分頃、東北の三陸沖を震源としてマグニチュード(M)9.0というわが国観測史上最大の巨大地震が東日本一帯を襲った。そして美しいリアス式海岸の集落を予想をはるかに超える大津波が広い範囲で、人や建物、街全てを飲み込んだ。その被害はあまりにも甚大で「激甚被害」と指定され、被害の全容はまだ判明していないが多くの尊い生命が失われた。▼犠牲となられた皆様に対し、つつしんで哀悼の意を表するとともに避難生活を余儀なくされておられる皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、一日も早く復旧・復興が行なわれることを心から願う。▼京都府社会福祉協議会では、全社協・近畿ブロック府県社協・府内市町村社協をはじめ、京都災害ボランティア支援センターや関係機関と連携しながら、被災地の状況把握と情報提供、本格的な支援体制づくりに向け被災地へ職員を派遣するなど支援に全力をあげて取り組んでいる。▼国、自治体は連携し、総力を挙げて、国民は被災された方々とも心を一つになって、そして勇気と英知を持って自分ができることをやっていく。今、日本の底力を見せる時。

(平成23年3月18日)

活動の紹介

NPO法人

サリュの挑戦

生き生きと働ける 場づくりを目指して

サリュとはフランス語で、「やあ」「こんにちは」というあいさつの言葉。名前のとおり一見、普通の町家と見間違えてしまいそうな佇まいで迎えてくれます。一歩中に入ってみると落ち着いた様子のどこか懐かしい感じのする場所です。そんな「のんびり」「ほっこり」した雰囲気の中、居間にはメンバーの手作りという可愛らしい作品がたくさん並べてあり、その完成度には目を見張るものがあります。当事者支援という役割をもつ本会は、当事者の抱える課題を発信しています。サリュは、商品づくりと販売だけではなく様々な取り組みを行われているとこのことで、今回は地域住民向けの体験教室「茶里遊庵」にお邪魔し、サリュの取り組みを所長の瀬端方起さんに伺いました。

サリュの紹介

サリュ（京都市上京区）は、8年前に心の病いなど、何らかの生き辛さを抱える女性が集まれる場を作ろうということで設立された共同作業所です。通うメンバーそれぞれが得意なことを活かし、ビーズや編み物、裁縫などの和洋雑貨を作り、販売するという仕事を主にしています。また、料理

やフィットネス、日帰り旅行などの時間もあり、これらは余暇活動であるとともに、生活場面のリハビリにもなっています。さらに、スケジュールやプログラムの内容などを話し合う月3回のミーティング、事業運営について話し合う「しゃべるぞー」という座談会、「ぺちゃくちゃアワー」という病気や悩みについて話す時間などがあります。これらは、自分の考えや気持ちを伝

えること、他人の話を聴くことの練習にもなっています。特にミーティングや座談会ではサリュの運営や具体的な取り組みなどについて話し合い、「自分達のサリュ」という意識を持つことにつながっているそうです。

サリュ通信（広報紙）のメンバーが書いたサリュ紹介記事には、「異性のいない場所であり、社会復帰の場所でもあり病の自分を受け入れてく

れる場所でもあります。中には、他に行く所がなくサリュに来る事で社会や人とのつながりを得ている人もいます。単純に一般的な作業所ではないのが、このサ

講座をととした地域との関わり

リュであり、通所する私たちの利用目的の一つでもあります」とあります。心の病を抱える女性たちにとって、サリュは様々な意味を持っているのです。

今回お邪魔した茶里遊庵は、立ち上げ当初から毎月第2水曜日に開催され、地域の人も気軽に参加できるようにと手芸や映画鑑賞など様々な講座が行われています。取材にあたって職員を講師とした「ラッピング講座」とメンバーが講師を務める「手話講座」に参加させていただきました。講座中も和気あいあいと終始アットホームな雰囲気、終了後はお茶とお菓子をいた





だきながら、おしゃべりをする時間も設けられています。今回の講座には、市内・市外はもちろんのこと府外等遠方からの参加者もいらつしました。日常的に関わるボランティアの方もいらつしたとのことでした。

このような場合は、メンバーが自然に地域社会とつながる場となり、また、サリュウの活動を地域に向けて発信する場として機能

メンバーは、講座の参加者へお茶・お菓子を出したりと、適材適所の役割分担がなされているのも印象的でした。

「知って欲しい」 ～社会の認識を変えていく取り組み～

今回の取材で感じたことは、メンバーもスタッフも「地域にサリュウのことだけでなく、自分達のこと、心の病のことを知って欲しい。今は社会に出ていけなくても、つながりたい、仕事したい」という気持ちを仕事や体験講座などで前向きに活かしておられることです。それは自分達で商品開発や企画、営業や管理部門に分かれてステップアップしていくことにも現れています。現在はウェディング関連の商品開発やウェ

今回体験させて頂いた「ラッピング講座」はバレンタインの時期にも開催されるということです。また手話講座もシリーズでの開催が検討されています。

していると感じました。今回の手話講座のように、メンバー自らが講師を務めることもあるそうで、講座の参加者とのふれあいや講師を務めることを通して、自信・生きがいを得、社会へ出て行くための準備にもなるそうです。

「技術がないので講師はできない・・・」あるいは、「人前で講師をするまではちょっと・・・」というような

★サリュウ★
 京都市上京区千本丸太町下ル主税町1172
 TEL&FAX : 075-812-2132
<http://salut.her.jp/>

I♥地域生活支援サポーター養成講座

権利擁護事業を寸劇で紹介

「まちづくり」を呼びかけ

「商売十福祉」地域の輪」〜知って得する商工セミナー〜

誰もが「地域で安心して生活したい」という願いを持っています。しかし、認知症や障害などにより判断能力が不十分のために、悪質商法の被害にあったり、さまざまな支払いが滞りがちになるなど、不安を抱えて生活している方々がおられます。そのような方々の生活を支え、権利を守るサービスとして、地域福祉権利擁護事業があります。この事業について、商工関係者の方々に知ってもらい、社協との連携強化・相互理解を進めるために、山城北中部広域社協合同講座「商売十福祉」地域の輪」〜知って得する商工セミナー〜を開催しました。

協働事業として

誰もが住みなれた地域で当たり前の生活を続けていくために、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度など自分自

身の権利を守るためのサービスについて、多くの地域住民の方々と一緒に検討していくことは社協の大切な役割です。山城地域の社協では、地域福祉権利擁護事業担当者が本会担当者と協働で企画・運営を行い、

「山城北中部広域社協合同講座」として平成16年度から毎年、講座を開催しています。地域福祉権利擁護事業にかかわる関係者との連携強化・相互理解を目指し、平成20年度は司法関係者、平成21年度は金融機関の職員を対象に開催してきました。今年度は商工関係者を対象として城陽市で開催しました。

身近に起こっていることを寸劇に

当日の参加者は、山城地域の商工関係者や行政の産業関係部署の職員など30名。

まずは、日頃の支援現場で起こっている出来事をもとに、社協職員による寸劇を披露しました。一人暮らしで認知症のある高齢者の注文や集金に、地域の米屋や電気店、新聞販売店が対応に困っているというストーリー。「今月こそ払ってくださいね」「あれ？そうやったかなあ？でもお金がないですし、どうしようねえ？」社協職員の

熱演に、時折笑みが起こる場面もあるなど、

和やかな雰囲気の中、参加者も集中して見ている姿には「他人事ではない」と自らの状況にひきつけて考えている様子うかがえました。

その後、参加者にも普段の商売で同様の経験がないかなどグループで意見を出し合ってもらいました。薬局や文房具店の方から、日ごろ「同じような認知症の方の支払いに困っている」等、実際に普段の商売の



「寸劇」のメンバー（社協職員）



連携・協力で生活を支える

寸劇の最後には、問題を解決する一つの

中で困る場面があったり、身近に起こり得る問題として、参加者の関心が非常に高いことが分かりました。



方法として、地域福祉権利擁護事業の利用により、商店の支払いができ、遠方に住む家族も安心する、とその後の生活の変化を紹介しました。

参加者からは「今まで相談するところもわからなかったが、制度を知って安心した」「もっと広報して欲しい」との声や、「今まで思いつかなかったが、福祉と商売（人）との連絡を密にする必要があると考えさせられた」「現実的な問題として日常業務でも想定しなければいけないテーマであり、分かりやすい劇だった。福祉関係のみならず商業者も勉強していかなければならない話」等の感想があり、地域の商工関係者と社協とが連携・協力しあって地域生活を支えていくことの大切さについて考える機会にもなりました。

権利擁護から「まちづくり」へ

地域福祉権利擁護事業を利用することで、利用者自身が地域で安心して生活し続けられるだけでなく、地域の商工関係者にとっても何かあったときに社協に相談することができるといふ安心感につながります。また、社協にとっても、支援を行う上で商工関係者など毎日の暮らしの中で関わり、地域とともに暮らしている方々の理解と協力、

見守りは欠かせないものです。今回の講座が、高齢者・障害者への理解や、商工関係者と社協の相互連携の関係づくりをすすめる一歩になったのではないだろうか。

また、意見交換では「ひとり暮らしの高齢者は寂しくて、話し相手を求めているから」など地域で共通した話題に対して、「人と人とのつながりや血の通った付き合いを

復活させる必要がある」「小さな町の商店が「まちづくり」をどうつくっていくのか考えたい」など地域づくりにまで意見が及んだグループもありました。権利擁護以外の分野でも、地域の方々と社協とが様々な場面で連携・協力し合い、一緒に生きていくことを考えています。

勇気ある一歩を支える「安心」

ボランティア保険

わずかな保険料で、傷害部分（ボランティア自身のケガ）と、賠償責任部分（活動中他人の身体・財物に損害を与えたとき）が補償されます。

保険料一名につき

Aプラン 300円 Bプラン 500円

ボランティア・福祉活動等行事保険

福祉事業総合補償制度
まごころワイド

もあります

問合わせ・申込先

（福）京都府社会福祉協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6295

取扱代理店 株式会社エスアールエム
専用ダイヤル 075-822-8613
引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

※この広告は保険の特徴を説明したものです。詳しくはパンフレットをご覧ください。 3-B-09.4059 2009年10月作成



うちのこれがイチオシ!

京の逸品紹介します!!

『富士讃菓』

障害者福祉事業所・施設のイチオシ商品を紹介するコーナーです。商品誕生のきっかけや“秘話”と共に、京都府内の隠れた逸品の「こだわり」をご覧ください!

☆このコーナーは、事業所・施設から寄稿いただいています。



事業所・施設名

社会福祉法人 右京区社会福祉協議会
京都市うずまさ学園

住 所 京都市右京区太秦森ヶ前町21-10

電話番号 075-873-5353

FAX番号 075-864-4753

購入方法

- ・電話・FAXでの注文。
- ・3月～11月の第3木曜日開催の学園前での青空販売会。
- ・各地域イベント出店

“志は高く”

京都市うずまさ学園は、右京区の総合庁舎(SA NSA 右京)から徒歩5分のところに位置し、知的障がいのある方が徒歩や公共交通機関を利用しながら通う職業訓練等のための施設です。施設の中には、フランス語で「かわいらしい花」という意味で「地域に根付いて花を咲かせてほしい」という思いが込められたパン工房「JOUR FIERE (ジョリフルール)」があり、14名の利用者さんと4名のスタッフが、クッキーや焼き菓子、シフォンケーキ、食パン等を毎日いきいきと製造しています。

今回、紹介させていただく『富士讃菓(ふじさんか)』は、パン工房で働く、仕事が大好きな利用者さん達の“志の高さ”を洋菓子で何とか表現できないかというところから企画が始まった商品です。クグロフ型で焼いたケーキにホワイトチョコをあしらうという形や味はすぐに決まりましたが、生地分量をどれくらいにし、どのくらいの時間焼けばよいのか何度も試作を繰り返した。企画から半年ほどかけて商品化に至りました。

現在は、チョコ味と抹茶味の2種類があり、サイズは直径約18cm、高さ約10cm。価格は1ホール2,000円(税込)、賞味期限は1ヶ月となっています。注文販売もしくは3月～11月の第3木曜日に学園前で開催している青空販売会や各所のイベントで販売しておりますので、どぞお気軽に声をかけ、お立ち寄りいただき、働くことが大好きな利用者の方々を知ってもらえる良い機会となることを願っています。

皆様、いかがでしたでしょうか?

商品に興味がある!という方は、京都の福祉へのご感想を沿えて下記へお申し込み下さい。ご応募頂いた方の中から、抽選で5名様に「富士讃菓」を進呈いたします。

富士讃菓プレゼント応募方法

「京都の福祉」の感想、氏名、住所、電話番号をご記入の上、ハガキ、ファックスもしくはメールにて右記宛にお送りください。(メ切:平成23年4月末)

なお、発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。また、商品は販売事業所・施設より直送いたします。(当選者の住所・氏名を事業所に提供いたしますのでご了承ください。)

宛先/〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375
府立総合社会福祉会館5階

総務部 京都府社会福祉協議会「京都の福祉」担当 宛

メール: so-mu@kyoshakyo.or.jp

FAX: 075-252-6310

福祉職場就職フェア 京都2011のご案内

福祉のお仕事を探している方、興味を持っている方を対象に、下記の日程で「福祉職場就職フェア京都2011」を開催します。今回は、社会福祉法人や病院、NPOなど約150ブースが出展予定です。また、当日併催イベントとして「介護・福祉のしごと魅力再発見フロア」を開催します。ぜひお誘い合わせの上、お越しください。

日時：平成23年5月29日（日）

・説明会：12:30～16:00（受付時間12:00～15:30）（予定）

＊オープニングイベントを12:10から行います。

・併催イベント「介護・福祉のしごと魅力再発見フロア」（1F）
：10:10～16:00

**場所：京都市勧業館みやこめっせ
3階展示場（説明会）
1階展示場（併催イベント）**

京都市左京区岡崎（地下鉄東西線「東山駅」より徒歩10分）

- 対象：新卒・既卒・転職希望者（未経験者可）
- 出展者：京都府内の求人事業所（社会福祉法人・病院・NPOなど）
- 主催：京都府／京都府社会福祉協議会 京都府福祉人材・研修センター
- 協力：きょうと介護・福祉ジョブネット

平成23年5月1日21日（金）ハートピア京都にて京都府生命保険協会（会長赤松隆三）の車両の寄贈式が行われました。京都府生命保険協会では社会貢献事業の一貫として、生命保険社員の募金を基に、福祉巡回車の寄贈を毎年行なっています。本年は福知山市社会福祉協議会へ車両を寄贈しました。

また、平成23年5月22日（金）大阪陸運協会（理事長 前田純治）より70万円のご寄付をいただきました。社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。



大阪陸運協会徳野辰夫専務理事様（写真右）よりご寄付をいただきました。



京都府生命保険協会赤松隆三会長様（写真右）より福知山市社協（写真左）に車両キーが手渡される。

夢中!・熱中!ふくしびと

～だから続けたい この仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。



プロフィール



施設名 よさのうみ福祉会
障害者生活支援センター「結」
氏名 沖上 みゆき
職種 相談支援専門員
経験年数 相談支援業務で9年
好きな言葉 なんとかなるちゃ
はまっていること／
料理(煮豆、ラタテューユ、煮豚など)を気の
向いたときにたくさん作り無理やり人にあげ
ておいしいと言ってもらって喜ぶこと

相談支援の仕事とは… その人らしい生活を一緒に考えること

よさのうみ福祉会
障害者生活支援センター「結」
沖上 みゆき さん

ことばでなくても、「親子水入らずで、短時間でもいからきれいな景色を見ながらゆった

ことができるのか、障害があるが故に当たり前の権利が奪われていることに対して「おかしいよね」と考える視点、相談者の立場や、相談に至るまでの経過や気持ちを感じ取り聞き受け止める姿勢、自分がもしその立場だったら…と想いを馳せることのできる感性を持ち続けたいと思いつつ日々仕事をしています。

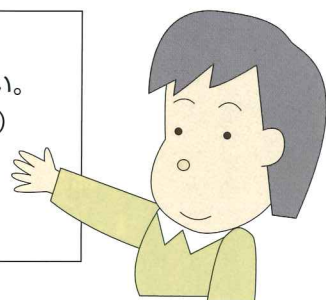
相談支援の仕事は常に自分の価値観を検証し、その人らしい生活がどうしたらできるかをいっしょに考えていく仕事であると感じています。最近になつてやつと思つようになりました。

「お母さん、これからAさんとどんな生活がしたい?」「…できれば一人でゆつくりきれいな景色見ながら散歩がしたい。それと…自分たちが見られる間は一緒に生活ができればどんなにいいか…」
Aさんは現在20歳。重度の行動障害があり、生活介護事業、ケアホーム、日中一時支援事業、行動援護などを利用しながら生活を送っております。右記はそのお母さんとの会話です。Aさん家族と関わり始めて9年になります。特別にお母さんとは精神的なしんどさや、Aさんの障害を受け止めるための心の動きに寄り添いながら、じつくり聞いてきたつもりでしたが、この言葉は心にずしんとくる言葉でした。重度の行動障害があるため、ずっと一緒に生活する

りと散歩したい…」このささやかで当たり前の願いを、ずっとお母さんは持つておられたことを改めて知り、その想いを叶えるために私にできることは何かと改めて問い返される言葉でした。
私は短大の福祉科を出て無認可共同作業所、知的障害者施設を経て相談支援の仕事に就いています。福祉職に就いたのは、出生時のトラブルから脳性麻痺となり自分に障害があるからという理由で、進路は福祉の分野で深く考えずに決めました。
もともと人が好きで、人と話すことが好きで、人のことを放っておけない性格が今から思えばこの仕事に合っていた?のかもしれませんが。自分の障害を受け止めるまでにかなりの時間を要し、今でも自分に障害があることで落ち込むことはあり、まだまだだなあと思うことがたまにあります。

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。



京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会
発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>